

イチゴ「ゆめのか」の栽培指針



愛知県農業総合試験場では、とてもジューシーで、甘さと酸味のバランスが絶妙なイチゴ新品種「ゆめのか」を開発しました。鮮やかな紅色をしたおいしいイチゴです。

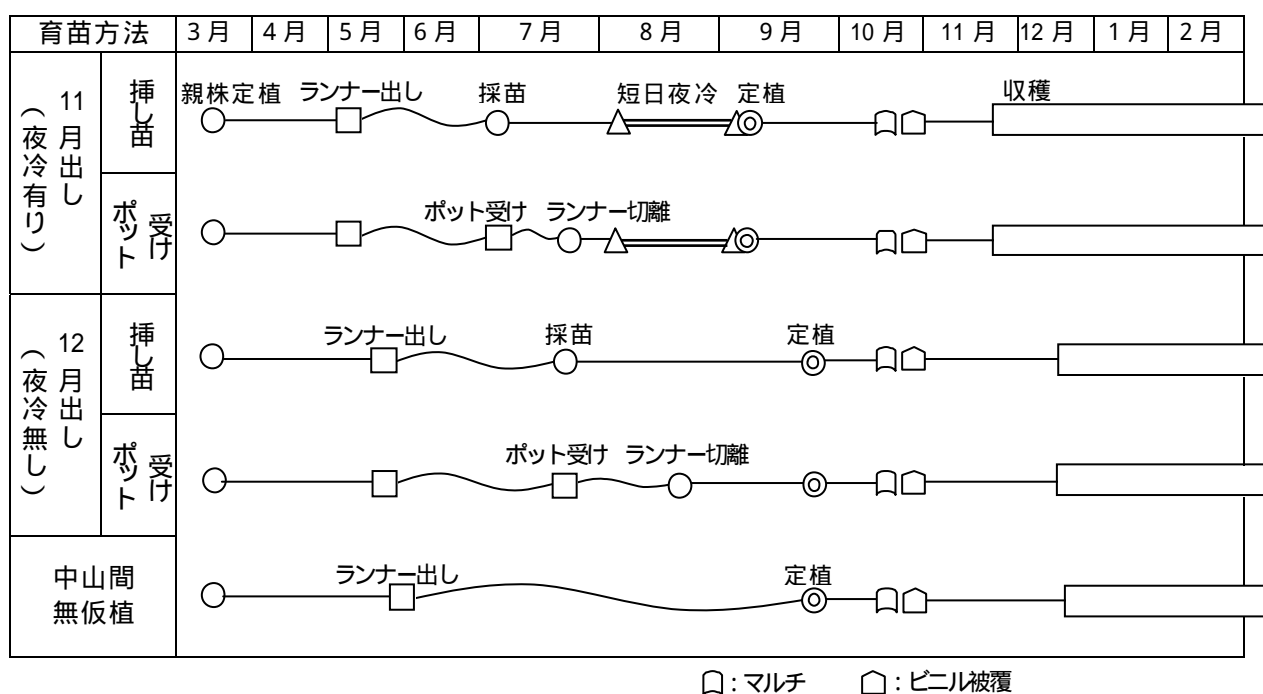
この品種は草勢が強く、平均 20 g 前後のよく揃った果実がたくさんなります。果皮がほど良く硬いため傷みにくく、完熟に近い状態で収穫できます。

ランナーの発生が旺盛で、発根もよく、育苗は容易です。また、うどんこ病に強いので、減農薬栽培が可能で、ハウス栽培で冬から初夏まで新鮮なイチゴを消費者に届けることができます。

品種の特性

- ・甘味と酸味をあわせもち、さわやかな食味です。
- ・果肉がジューシーであるにもかかわらず果皮がほどよく硬いため、傷みにくく、完熟に近い状態での収穫が可能です。
- ・うどんこ病に比較的強いので、農薬の使用が減らせます。
- ・ランナーの発生が旺盛で育苗が容易です。
- ・連続出らい性で栽培しやすく、高収量が期待できます。
- ・花芽をつけるのに、「とちおとめ」や「章姫」に比べてより低温を必要とします。花芽形成は、「とちおとめ」や「章姫」より1週間ほど遅いですが、短日夜冷処理により早出しが可能で、高設栽培にも向きます。

作 型



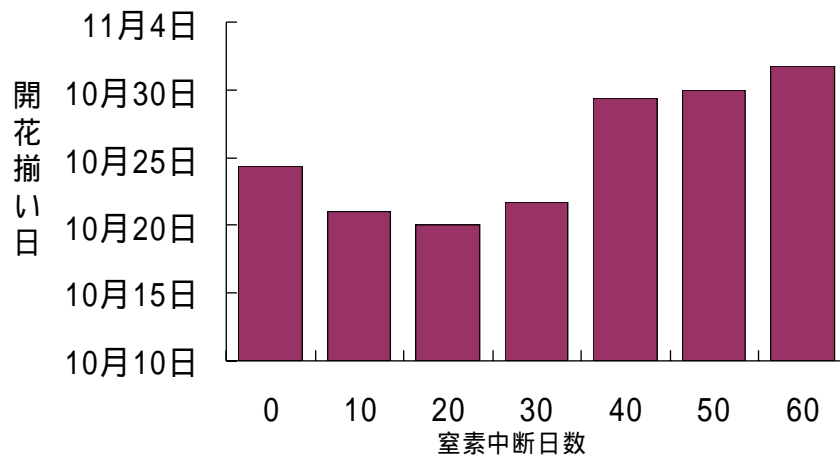
- ・短日夜冷処理は、花芽分化を安定させるため、「とちおとめ」や「章姫」より長い35日程度実施します。9月10日頃の定植で、11月中下旬からの収穫となります。
- ・頂果房の花芽分化は、自然状態で9月20日過ぎなので、短日夜冷処理を行わない場合は、9月20~25日頃に定植し、12月下旬頃からの収穫となります。
- ・秋期の高温や多肥は「とちおとめ」や「あきひめ」以上に腋果房の開花を遅らせる要因となるので注意します。
- ・吸肥力は高く草勢は強いですが、生育はゆっくりです。定植後、葉や果房の伸長を停滞させると収穫開始が遅れるため、適度な肥効は必要です。

栽培管理のポイント

育苗

- ・ランナーの発生開始は「とちおとめ」や「章姫」より1～2週間遅いが、発生量は「女峰」並に多いです。ランナー発生時期を揃えるために、無加温ハウスに置く等により早春までに親株を5以下の低温に十分あてましょう。
- ・盛夏期の最も暑い1週間から10日程度の期間はランナーの伸長が停滞気味になりますが、高温期でもランナー発生は良く、発根も早いです。
- ・活着が早く根量が多いため、育苗期間が長いと、根鉢が形成され老化苗となりやすいです。従って、**2.5寸(7.5cm)鉢の場合、育苗期間は60日までをめやすとし、定植時にクラウン径8mm(3葉に整理した状態での長径)の苗**をめざします。
- ・活着後、窒素を控えると花芽分化が安定する傾向があります。ただし、定植直前まで窒素を控えると、生育が停滞して出らいが遅れますので、育苗後半には少量の施肥(液肥等)を行って生育を促します。葉色は「とちおとめ」「章姫」より淡く、葉柄にアントシアニン(赤色)が出やすいため、窒素が適量レベルであっても、葉や葉柄の色から、**従来品種よりやや「やせ苗」に見えます**。
- ・短日夜冷処理を行う場合は、7月上旬に採苗(挿し苗育苗)あるいはランナー受け(受けポット育苗)を実施し、8月上旬から35日間程度短日夜冷処理を行い、9月10～15日に頂果房の花芽分化を顕鏡し確認した上で定植します。なお、「とちおとめ」及び「章姫」より花芽分化に多くの低温を必要とするため、**夜冷蔵庫の温度は、15以下が確保できるように**注意します。
- ・短日夜冷処理を行わない場合は、7月下旬に採苗(挿し苗育苗)あるいはランナー受け(受けポット育苗)を実施し、9月20～25日頃定植します。
- ・かん水不足は生育停滞による出らい遅延を引き起こすので、**こまめなかん水**を行いましょう。
- ・育苗中も、苗からランナーが旺盛に発生するので、適宜ランナーの摘除及び葉の整理を行い(3枚程度)、**風通しをよく**します。

育苗中の窒素中断期間と開花日

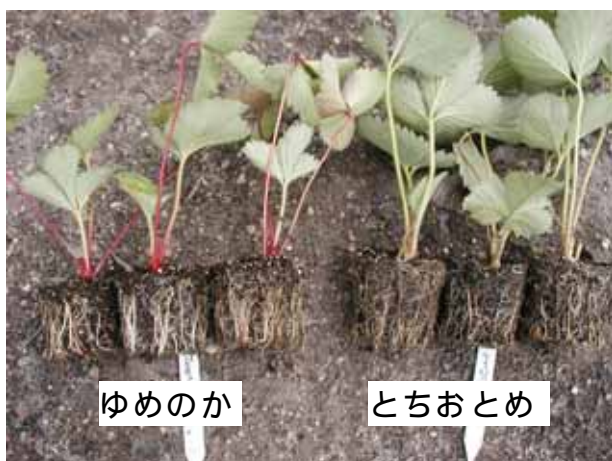


挿し苗(育苗期間60日)について、挿してから肥料を施用するまでの日数を変えて開花日に与える影響を調べました(0日:窒素中断無し、60日:定植まで窒素中断を継続)。窒素中断は開花を早める効果がありましたが、後半まで窒素中断を続けると生育遅延によりかえって開花は遅くなりました。

定植～頂果房肥大期

- ・草勢が強く果梗が伸びるので、畝は高めとし、**株間は20cm以上**とします。本ほ基肥は「とちおとめ」と同程度とします（窒素15～20Kg/10a）。
- ・腋芽は、頂果房肥大時期までは増えやすいです。株間により残す芽数を調節します（株間20cmでは1芽、25cmでは2～3芽）。株間を広めにして複数の芽を利用すると、省力かつ収穫を連続させるのが容易です。
- ・活着は早く、多数の直根が伸びます。定植後しばらくの間（1か月あまり）「とちおとめ」や「章姫」に比べて地上部の伸長が遅いですが、その後、旺盛な生育を示し、収穫開始時には「章姫」並みの草高となります。
- ・停滞無く生育させるため、**適度な土壌水分量(pF1.9)や肥効が必要です**。ただし、**頂果房肥大期までの多肥により腋果房の出らいが遅れる場合があります**。
- ・葉色を見て従来品種の感覚から肥不足と判断せず、腋果房の出らいを安定化し果房当たり果数をあまり増やさないために、**原則として追肥は頂果房の肥大期から**とします。
- ・秋季が高温の場合、「とちおとめ」や「章姫」以上に腋果房の出らいが遅れやすい傾向があります。高設栽培など周年被覆の場合、換気に気をつけ、ハウス気温が上がり過ぎないように注意しましょう（**25℃を上回る時間をできるだけ少なく**）。
- ・マルチ10月中旬、ハウス被覆10月中～下旬としますが、ビニル被覆が早すぎると、腋果房の遅延を招くので注意します。特に初秋が温暖な年は、花芽分化を確認してからの被覆が望ましいです。

ゆめのか苗の特徴



定植苗（挿し苗、育苗期間60日）



苗の発根状況(受けポット)

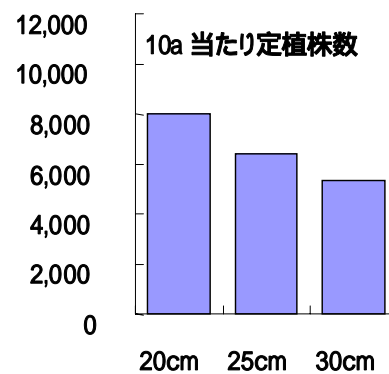
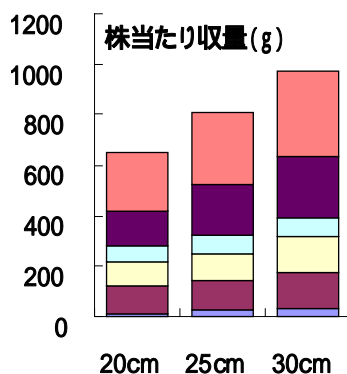
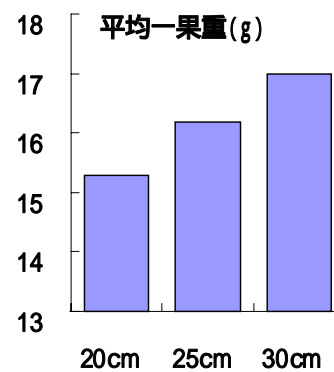
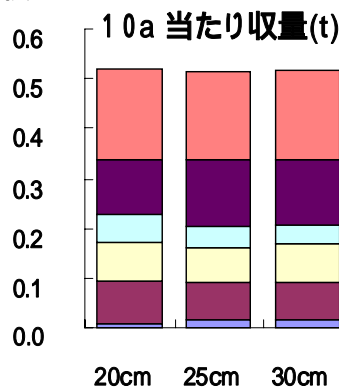
「ゆめのか」は、太根が多いのが特徴で、受けポットの場合、小苗でも根量が多いです（右図）。また同じ肥培管理で育苗した場合でも、とちおとめに比べて葉柄が赤くなりやすく、葉色も淡くなります（左図）。

写真提供：JAひまわり

収穫期

- ・草姿は立性で草勢は強いが、葉は展開・伸長速度がゆっくりで活動期間が長いです。冬期の過度の摘葉は生育を遅延させるので、黄化葉を取り除く程度とします。
- ・草勢を維持させるために、**頂果房肥大期（11月頃）から月2～3回程度、液肥による追肥**を行います。
- ・頂果房の1～3番果や**草勢を急に強めると、先青が発生しやすい**です。
- ・腋芽は、連続出蓄している間はあまり増えません。
- ・暖房温度及び換気温度は、2重被覆の有無や日照等の較差のため、地域により異なりますが、葉の繰り出しを促すため土耕の場合5程度、高設の場合8程度の加温が望ましいです。換気温度は27～28とします。炭酸ガス施用の効果も高いです。
- ・電照により、果房が伸びやすいです。電照期間は、概ね12月から1月下旬としますが、草勢を見ながら期間及び時間を調節します。**急激な長時間電照や過度の高温管理は、樹があばれ、食味を落とす**結果になりやすいので避けます。
- ・頂果で3～4Lの大果となり、2番果以降の肥大も良いが、開花した花の着果率は高く、着果数が多くなりやすいです。
- ・施肥量が多い、また果房の間隔が空いた場合に着果数が多くなりがちです(20～40果/果房)。着果数が多いとすそ玉が小さくなるため、**頂果房で20～25果程度**に制限するとL以上の果実がよく揃い、草勢の低下を抑えることができます。摘果または果房の除去は、次果房の出らいいを見てから実施すると出荷が連続し草勢が安定します。

株間と収量



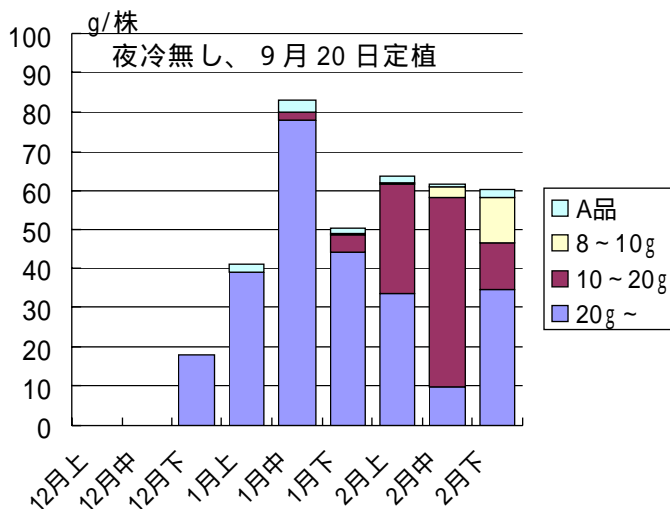
株間を20cmから30cmまで変えると、定植株数を減らすことができ(右下図)、平均1果重(右上図)や株当たり収量(左下図)は増えるので、10a当たり収量(左上図)は、ほとんど変わりません。

- ・果実のマルチ側（裏側）の着色が若干遅いです。良食味を維持するために、**果実全体の色回りを確認**し、8～9部着色（種がある部分は全て着色）以上で収穫します。ただし、完全着色から過熟にかけての果皮色の変化がほとんど無く、過熟に近づくと、へた下の果皮が裂けることがあるので注意します。
- ・3月以降、高温となる時期には、流通時の軟化防止のため7～8部着色で収穫します。果皮は丈夫であるが収穫適期は狭いので**収穫間隔をあけないようにします（春は中2日以内）**。
- ・高設栽培の養液管理は、「章姫」とほぼ同じでよいが、草勢が強く根量が多いので、かん液量を多めにしてそれに合わせてECを調節します。
- ・大果となるので、高設栽培における**果梗折れ対策は必須**です。
- ・収穫開始時(12月頃)の草高の目標は、30cmとします。その後は、**25cmの維持を目標**に摘果や電照、追肥などにより管理します。良食味の果実を中休み無く収穫するには、草勢の維持が重要です。

病害虫対策

- ・現在のところ、うどんこ病には強いが、この品種にかかりやすい系統（レース）が出現する可能性があるので、硫黄くん蒸などで菌密度を下げるよう努めます。
- ・育苗中に葉やランナーの整理を怠ると、蒸れて高温多湿となり、炭疽病が多発しやすいので、**定期的防除とともに風通しをよく**します。
- ・萎黄病の対策として土壌消毒をおこないましょう。
- ・高湿度になりやすい株元や、また花おちが悪い傾向があるため果実に灰色カビ病が発病しやすいです。灰色カビ病や菌核病を回避するため、過湿を避け、罹病株・果実を発見したらただちにほ場外へ持ち出すなど、**ハウス内環境をクリーン**に保ちましょう。
- ・葉が厚く色も淡いため、**ダニの食害痕の発見が遅れやすい**ので、ダニ、アブラムシ防除には天敵の利用が望ましいです。
- ・**農薬は、容器ラベルの指示に従って正しく使用してください。**

2月までの早期収量

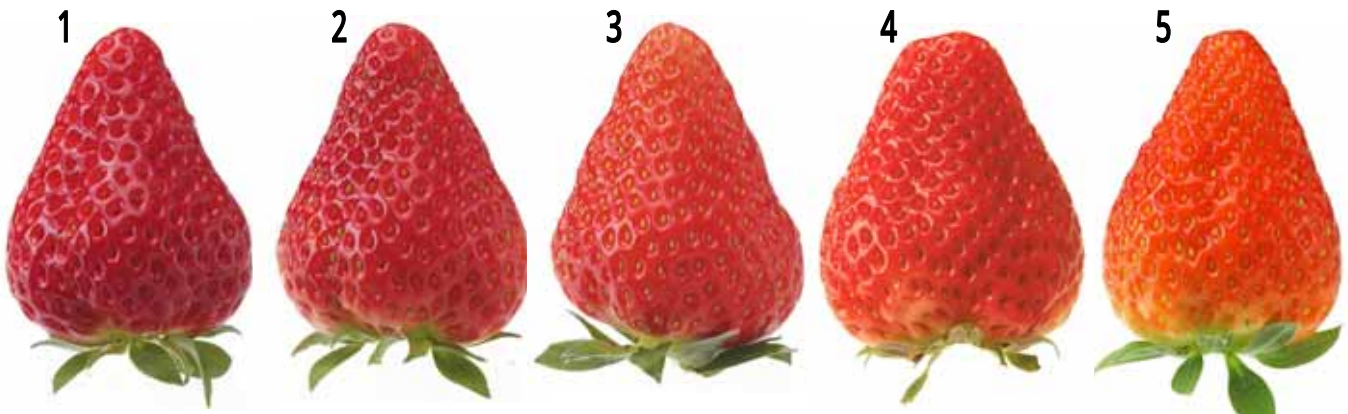


2月までの収量 377g/株
平均果重 22.6g

収穫初期（頂果房）の収量が多く、しかも大果で秀品率が高いことは、「ゆめのか」の大きな魅力です。反面、果数が多すぎた場合には、着果負担により中休みや品質低下が ocorrênciaしやすいという弱点もあります。

高品質多収には、適正な着果数、果房間葉数及び肥培管理により、草勢を維持し生育を停滞させないよう、じっくり育てることが重要なポイントです。

収穫調製のポイント



果実の着色程度は、時間と共に濃くなる傾向があります。しかし、果実によっては、写真3程度のまま、過熟になるまで色が変わらない場合もあります。収穫時期の判断には、へた部の着色（下図）も参考になります。（下図はへたをとり去った写真です）

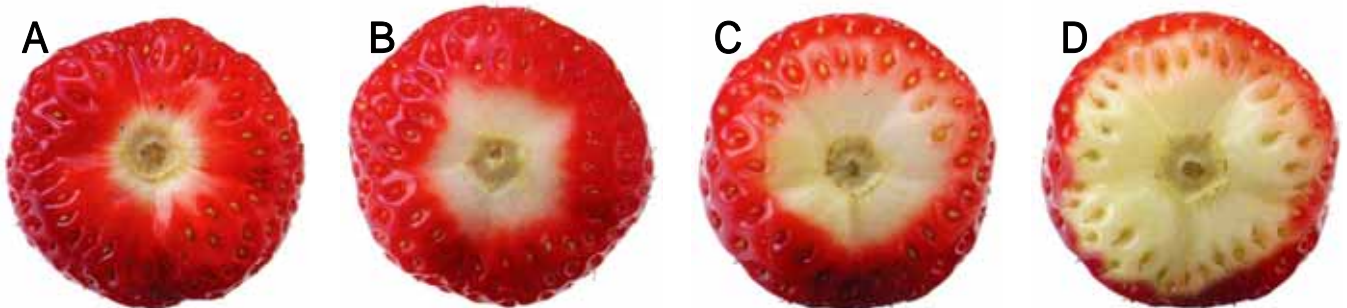
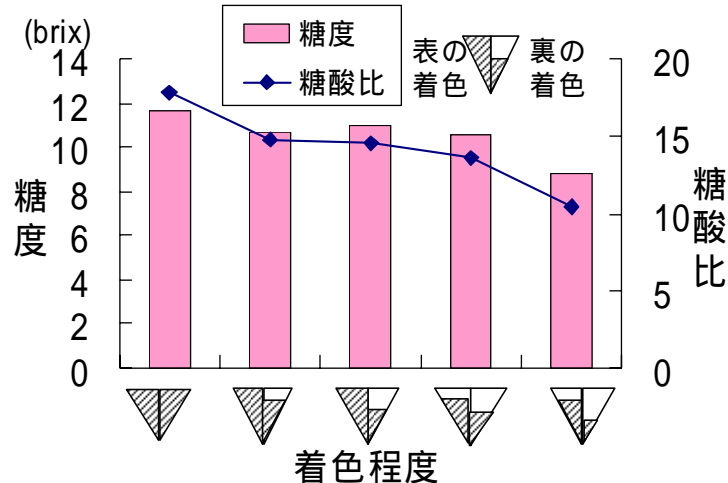


写真 A の果実は、完熟で味が乗っていますが、適熟過熟の判断が難しく、厳寒期であれば流通適性は十分ですが、暖候期には押せや潰れが出やすくなります。写真 B～C 程度の果実が収穫適期です。写真 D の果実は、まだかなり酸味が勝りますが、暖候期でも日持ちは良いです。

写真提供: JA あいち経済連

果実の着色と糖酸

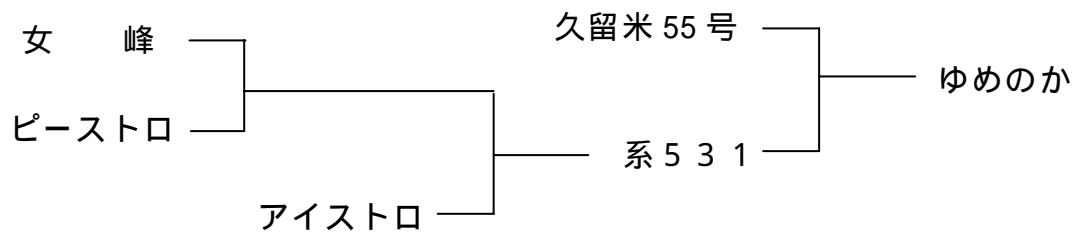


「ゆめのか」の着色程度と糖度・糖酸比
(2月下旬、糖度は果頂部1/3で測定)

着色程度の異なる果実の糖度と酸度を測ってみると、裏（マルチ側）の着色不足では糖度が低いことがわかります。

果実全体の着色を見て収穫しましょう。

育成の経過



既存の主力品種には無い特徴ある食味や香りと、果皮の硬さや安定した連続出らい性を合わせ持った促成栽培用品種の育成をめざし、平成11年春に、玉揃いが良く連続出らい性の久留米55号(九州沖縄農業研究センター育成)を子房親に、果皮が硬い系531を花粉親として交配を行い、食味良く連続出らい性で果皮が硬い「ゆめのか」(愛知6号)を選抜しました。

普及目標と栽培許諾

平成20年度に、県内で30haの栽培面積を目標に普及を進めています。なお、品種登録を出願しており、栽培には愛知県との許諾契約が必要です。



編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線 323 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi>